

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 全国公民館セミナー参加レポート

4.5

- 2 トピックス 県理事会、評議員会、関プロ理事会開催 事務局
- 3 視点 「一步を踏み出す」 新潟市豊栄地区公民館・川近 和雄
- 3 ひろば 「孫育て」 新発田市社会教育委員 公民館運営審議委員・田中 文子
- 6 実践記録シリーズ 「元気の出るふるさと講座（上越市谷浜桑取地区・大島区）」 上越市立公民館・小池 和美
- 7 サークル交流 「ハーモニーを楽しむ」（阿賀野市）／「楽しくパステル画制作」（上越市）
- 7 素顔拝見 三富 学さん（新潟市）／笠原 正俊さん（南魚沼市）
- 8 お元気ですか 三条市・村田 繁男さん
- 8 ネットワーク



良寛堂建立90周年 記念行事（出雲崎町）

表紙解説

「良寛堂」の建立90周年を記念した、東京学館新潟高等学校書道部の皆様の書道パフォーマンスです。

県理事会、評議員会、関プロ理事会開催

事務局

〈県理事会・評議員会〉

今年度の最後の理事会、評議員会が2月15日(金)に南魚沼市民会館で開催されました。本会議はこれまで新潟市や長岡市で開催されてきましたが、本年8月に開催される関プロ新潟大会の全体会が南魚沼市民会館で開催されることから同会場での開催となりました。



評議員会の様子

会議では、理事、評議員のほぼ全員が参加して次のことについて協議を行い承認されました。

- 1 会務報告
- 2 決算の中間報告
- 3 次年度活動基本方針・重点目標・事業計画
- 4 次年度予算案
- 5 次年度県大会
- 6 関プロ新潟大会開催準備・運営

7 他団体との連携・協力

8 その他、
1 1年間の事業等について計画どおり行われたことが報告されました。
2 については、
予算どおりの執行に努めて例年並みの繰越金がありました。

3 については、
活動基本方針では、特に、関プロ新潟大会の成功に向けて総力を結集し、大会運営にあたることを強調されました。

重点事業として取り組んできた、公民館月報電子データ化の事業終了とホームページでの公開についての説明がありました。
事業計画は例年どおりの会議開催や研修会への参加計画が示されました。

4 については、
例年並みの予算編成です。

5 については、
今回は、関プロ大会と兼ねて開催されることから簡略化された表彰セレモニー中心の運営案が承認されました。また、平成26年度県大会が新潟市で開催されることが確認さ

れました。

6 については、
全体の開催要項の確認と運営各部(総務部、広報部、輸送・宿泊部)の活動予定が示されました。

7 については
例年どおりの団体が提案されました。

会議の日程は、理事会が9時30分開始で早く、引き続き評議員会が行われたのでやや厳しい日程でした。佐渡市の評議員は前泊をして出席しました。当日は、朝から時折吹雪模様になる荒天の中、大変お疲れ様でした。

*

同日の午後からは、関プロの第3回理事会が開催されました。新潟県は副会長・理事の湯浅会長と理事の田原事務局長の他に、オブザーバー参加として、武樋副会長と阿部総務部長、岩崎輸送・宿泊部長(代理参加)、呉井中越公連事務局長が出席しました。会議はブロック加盟11都県のすべての役員が出席し、次のことについて協議を行い承認されました。



関プロ理事会の様子

1 第53回関東甲信越静公民館研究大会・長野大会の総括

2 第54回関東甲信越静公民館研究大会・新潟大会の開催計画

3 平成25年度関東甲信越静公民館連絡協議会理事會等開催計画

4 その他
1 については、
全体会における「信州発！リレーメッセージ」の斬新な運営について、歴史的な成功と絶賛する声がありました。

2 については、
すでに第2回理事会で概要の説明があり、重点点の説明のみ行われ承認されました。
重要点① 全体の情報交換会を行わない。宿泊地が各都

県で離れて分散するため。

重要点② 全体会の課題提示は現役の公運審委員が寸劇風に行う。講演はその課題提示を受けて行う。
また、分科会の担当都県については、理事会の申し合わせに従い、事前の希望アンケートのとおり決定しました。

会議には来賓として、全公連の石川事務局長と慶野次長が出席しました。石川事務局長は、あいさつで、関プロ長野大会の質の高い内容への評価と次期新潟大会への期待を述べられました。



写真右 石川氏と慶野氏

最後に、平成25年度関プロ会長に新潟県・湯浅康夫氏(県公連会長・新発田市中央公民館長)を選出しました。また、県公連事務局が関プロ事務局になりました。(田原)

視点

一步を踏み出す

新潟市豊栄地区公民館 川近 和雄



広島生まれで新潟市に転居して10年。かつて民間会社勤務で全国各地をまわっていたが、縁あって新潟で社会教育に携わることになった。新潟は他県と比較してみても、ちよつと大げさな言い方であるが「国内屈指の偉大な地方で」「やりがいのある地域」であると感じている。当初は、この気持ちはほんやりとしたものであったが今は確信に近いものになった。

社会教育の大きな目標の一つに「地域づくり」があるが、もう少し夢のある言い方をし「未来の救世主たる地域」と考えると10歳くらい若返る気持ちになる。地域が良くなれば個人の幸福度も高まるであ

ろう。どんどん人とのつながりが広がって「絆」ができる地域には明るい未来がある。残念なことは、県民性のせいか何事にも先頭に立ちたがらない人が多い気がする。広島は、人をかきわけて先頭で旗を振る人が多いだけに、この考え方にはいまだにとまどいがある。内なる思いや志をしっかりと持っていて「私がやる」と言う人が少ない。反面、リーダーがいれば力強いサポートが出来る人々なのにスタートでは一歩下がる。「もったいない」の一語である。私の仕事は「地域のために」「自分のために」にこの一歩を踏み出すお手伝いを続けて行くことだと思っている。

H O T N E W S

掲 示 板

平成25年度 公民館総合補償制度加入手続き中

この制度は、多様化する利用者を受け入れる公民館や公民館事業の遂行に伴う不慮の事故やケガへの備えとして手厚く対応できる、公民館に特化した制度です。全国でも多数の加入があり、新潟県内では平成24年度に21市町村258館が加入しています。

現在、既加入の公民館の継続手続きを行っています。新規加入の場合は4月15日(月)が申込み締切日です。(随時加入できます)本連合会では、公民館を利用する多くの人が安心して活動できるように「公民館総合補償制度」への加入を勧めています。

*「平成25年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」が各市町村教育委員会に送付済みです。

問い合わせ

公民館総合補償制度取扱センター
 エコー保険サービス株式会社
 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9
 電話 0120-636-717 または 03-5209-6620
 FAX 0120-226-916 または 03-5209-6621

「孫育て」

ひろば

新発田市社会教育委員・公民館運営審議委員 田中 文子

「ばばちゃん抱っこ！」と一人が膝に乗る。もう一人がハイハイしながら駆け寄る。二人の孫を片膝ずつ乗せて「大好きだよ！」と、抱きしめる「ばばちゃん」事、私です。

乳幼児期は人間形成の大事な「根っこ」の部分。子どもたちが健やかに育つためには沢山の人の愛され、関わりを持つことが大事。そのため、今、社会や地域の支援が必要ではないでしょうか。

朝から夜の迎えまで孫の世話をする新米「ばばちゃん」は、保育園への送迎、朝夕食事の世話等々で忙しい生活ももつすぐ一年を迎えます。

我が子も祖父母の愛を沢山受けて大きくなり、65歳の私は、今でも祖父母のぬくもりを肌で感じています。

「保育園ありがとう」お陰で少し、時間と気持ちに余裕をもつて孫と向き合えます。

与えられたチャンス！「孫育て三文安」でなく「孫育て三文高」を目指して楽しみます。

子どもに向き合うには大人の気持ちの余裕が不可欠。教育者も保育者も同じですね。

少子化・核家族化・共稼ぎ化等々、子どもを取り巻く環境が変化している現代です。



セミナー参加レポート

婚活から地域おこし

新潟市白根地区公民館
山宮 智子

「若者を公民館に呼び込むには？」多くの公民館で持つ課題の一つではないだろうか。全国公民館セミナーの三日目は全国地域結婚支援センター代表板本先生からお話を聞くとともに婚活プログラムを組み立ててみようという内容だった。

現在「婚活」は個人の問題ではなく、社会全体で考えなければならない問題。「婚活はただ、結婚をするきっかけを作るだけではない。婚活と地域おこしを関連付けて、若者を公民館に呼び込むしかけができないか。若者の視点は地域が見逃している良いところを発見してくれる。」と板本先生は長い間結婚支援・地域・若者とかかわってこられた経験をとおして提案して下さった。

この問題が嫁不足に始まり現在まで社会の問題として変わらないことに改めて気がついた。「結婚しない若者」は急速に増えており、マスコミでも取り上げられ「結婚するための活動＝婚活」と呼ばれるようになった。目新しく軽妙な言葉に隠されていたが、地域限定の問題から、社会全体の問題として拡大していたのだ。

経験も予備知識もないテーマなので興味があり、「公民館と婚活」は今回の研修の中でも期待していた時間だった。

経験に基づいた講師のお話は興味深い。たくさん引き出しからどんどん繰り出される気づきと、エピソードから伺える温かいお人柄に感銘を受けた。主催者側が「うまくいった」と満足するプログラムよりも「失敗だった」「段取りがうまくいかなかった」と思うプログラムのほうが問題を解決しようと参加者同士が力を合わせるのとお互いの関係をぐっと近づけること、初対面の時からバーベキューを計画するとうまくいかないことが多いなど、今後のプログラム作りに生かせるご指導もいただいた。私たちの地域にもお越しいただき、お話していただきたいと思った。

全国で行われている「婚活」の例を挙げると、動物園の舞台裏を見学するツアー「ZOO婚」、実行委員会が1年かけて企画を練って行ったものの参加者よりむしろ実行委員同士が親しくなった例、地方FM局とのコラボレーションで地域を売

り出しながら出会いの場を設定するもの、町の小さなスポットをつなぎ合わせて町めぐりをする企画などがあるそうで、そのタイトルもユーモラスなものが多い。

また、少子化対策・ワークライフバランスの推進の効果を狙い、予算もたくさんついているということだった。共通する点は、「地域」のよさを売り出す企画になっていること。結婚してその土地に住んでもらうためには地域のよさを知ってもらう必要があるからだという。他の土地から訪れた若い女性の目から見ると、普段見慣れた風景が感動の1ショットとなる場合があり、企画者側は教えられることが多いというのもうなずける。講師は「長くこの仕事に携わっていますが日々新しい発見があります。」と、仰っていた。お話を聞くまで、「結婚させるために出会いの場を提供」「成婚率＝事業の目的達成度は低い」「これって公民館が取り組むべき？」という考えしかなかったので、認識を新たにした。当館の地域でも住んでいる方のご意見では「人はいいけど何も無いんサ」と、地域のよさを外に向かってアピールしていない現状がある。長年住んでいるとそこにあるものは当たり前になってしまうのかもしれない。結婚成立と地域再発見の一石二鳥を狙って「婚活」は取り組んでみたいテーマとなった。

今回のセミナー全体をとおして改めて「公民館は人と絆を作る場所」と実感した。公民館の体制やありかたは地域それぞれ。一つとして同じ公民館はないが、訪れる人・地域・行政を結ぶ役割はどの公民館もかわりない。70人の仲間と過ごした3日間で得たことを生かし、心を新たに地域や人々と繋がって行こうと決意した。参加させて頂きありがとうございました。



特集

全国公民館

セミナーに参加して



新潟市鳥屋野地区公民館
布施菜美子

1月23日から25日の3日間、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第24回全国公民館セミナーが開催されました。北は北海道から南は沖縄まで、公民館が大好きで、そして熱い思いをもった公民館職員約70名が参加しました。今回の研修は一日目「吉田道場～これからの公民館の役割と課題」、二日目「廣瀬道場～公民館の映画をつくらう」、三日目「板本道場～公民館プログラム研修」というものでした。

今回の研修会全体を通して私が感じた事は、これからの社会において公民館がとても大きなそして重要な役割を担っているということ、そして公民館の未来は明るい！ということです。

一日目は講師陣のお話をお聞きし、改めて今の時代に求められる公民館がどういうものなのかということを考えることができました。新しい公民館像として、「住民の住民による住民のための自治」、そのための「ソーシャルキャピタル」(社会関係資本)としての公民館の活用を！と話してくださったのは文部科学省の伊藤課長。人が集い顔を合わせて信頼関係を築いていく、それができるのは地域の中心となる公民館であると、強いメッセージをいただいたように思います。また吉田道場では、社会教育と生涯教育の違い、またそれを踏まえたうえでこれからの公民館ができること、やるべきことがはっきりと理解できました。ゲスト講師の銭谷氏は、これからの公民館に期待することとして次の三点を挙げられました。①学校教育との連携②雇用問題対策としての成人に対するリカレント教育③地域関係づくりの場。特に三日目の地域の居場所としての公民館というところが、今最も求められている公民館の役割のように感じました。同じくゲスト講師の天野氏のご自身の震災復興支援での体験から、住民に交流の場を提供し丁寧に人間関係を築いていくことで、自然と住民自治が生まれるという話をされました。予測不能な震災が起り、さらにそれだけではなく様々な社会問題を抱える今、住民自治がとても重要になってくる。公民館は地域の人が集い、人と人がつながり合って自然と住民自治が生まれ

る場になり得る。そのためにも、公民館の都合を優先するような事業ではなく、地域の人に寄り添い、住民の心に届くような事業や交流の場の設定をしっかりと考えていかなければならないのだと、改めて考えさせられました。

二日目の映画作りは、公民館職員のパワーを強く感じました。研修に参加する前は、映画製作素人にたった一日で映画が作れるのだろうか…と、不安半分期待半分でした。しかし実際にチーム別に分かれ、テーマ、脚本、キャスト決めと進めていくうちに、いつの間にか夢中になり、あっという間に撮影、上映会と時間が過ぎて行きました。映画製作は初めての人ばかりでしたが、皆それぞれ意見を交わし合い、まるで映画製作が本業です！と言わんばかりの熱の入りようでした。初めて会った人同士でしたが、お互いに日々の悩みを話し合い、そして何よりもより良い映画を完成させるという同じ目標に向かって力を合わせるということで、終了後には何とも言えない一体感と達成感を味わう事ができました。完成したどの作品も、公民館ならではのエピソードが盛り込まれ、ほろりと涙が出るようなものまであり、その完成度はかなりのものだったのではないかと思います。公民館への熱い思いが伝わるとともに、公民館職員の底力を感じました。もちろんその後の交流会は盛り上がり、人と人がつながって新しい何かが生まれる、地域交流の場としての公民館でみられるような光景が、そこにはあったように思います。

三日目の研修会は、全国で婚活支援活動をされている板本氏のお話をお聞きして、公民館で行う婚活支援プログラムを計画してみました。公民館だからこその婚活支援プログラムとはどのようなものか、考える糸口になりました。

研修に参加する前は、つつい公民館の未来を暗く捉えてしまいがちでした。しかし、今回の研修会に参加させていただき、全国の公民館で日々がんばっている公民館職員のみなさんに出会い語り合えたことで、公民館の未来が明るくみえてきました。映画製作の講師だった栗山氏が、「私は公民館応援団です！」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。これからも、地域から愛され応援してもらえるような公民館作りを、地道にこつこつとやっていこうと強く思いました。



実践記録

180

シリーズ

「元気の出るふるさと講座（上越市谷浜桑取地区・大島区）」

上越市立公民館 小池 和美

今回は、2月号に引き続き、上越市立公民館の「元気の出るふるさと講座」を紹介します。

◎学習内容

この講座は3年間継続する講座として、今年度は「地域を知る」ことを重点的に企画しました。中山間地域4地区において、各5回講座で実施しました。この号では、谷浜桑取地区と大島区の内容を紹介します。

①「健康」をテーマに学ぶ（谷浜桑取地区）

谷浜桑取地区では、元気の出る地域を作るには、そこに住む住民が健康であることが大切なことから、健康に結びつくテーマについて学習しました。受講生は、谷浜桑取地区内の女性15人が集まりました。

始めに、上越市の中山間地の現状や、上越市が行った中山間地域における集落の実態調査結果について学び、保健師を講師に、検診結果からみた地域の健康状態について知りました。

また、米粉やそば粉、旬の素材を使った料理、健康体操を行いました。

写真は、10月に実施した公開講座の様子です。「ふるさとの自然、体験をとoshした健康づくり」をテーマに、他地域からの参加も募り、くわどり市民の森でキノコの学習を行いました。当日は受講生8人に一般参加者16人が加わり、紅葉の始まったブナ林を賑やかに散策し、ふるさとの自然の豊かさについて、改めて認識するとともに、参加者同士の交流を深めました。



「森で採取したキノコについて学習」

受講後のアンケートでは、来年度へ向けて「他地区へ訪問をしたい」「地域の歴史を学びたい」という積極的な意見が多くありました。

②他地区住民との交流を深める（大島区）

大島区では、受講生を区内だけでなく、広く市民

に呼びかけ募集し、19人の受講生が集まりました。（そのうち大島区在住は3人）

初回は、大島区の現状について、上越市集落づくり推進員や、地元藤尾生産組合の代表から講話をいただいたり、素人芝居「大浦安」の公演を見て、雪国の暮らしについて理解を深めました。



「古文書から見た大島区の歴史を学ぶ」

2回目以降は、そば打ち体験の他、大島区の歴史、大島区の音楽による地域づくり、雪のくらしなどについて学びました。

この講座では、市内のさまざまな地域から集まった受講生同士の交流、仲間づくりを促しました。受講生は60代から70代が多く、自己紹介から、現在市街地に住んでいても、もともとは中山間地域に生まれ育った人が多いことが分かりました。

講座をとoshして、過疎化、高齢化などの課題に直面しながらも、地元の方々が自然とともに豊かに暮らしている様子にも触れました。1月下旬の大雪の日、地元ギターサークルの心のこもった演奏を聴き、雪国の人の心の温かさ、心の絆を感じることができました。

◎次年度へ向けて

来年度は、今年度実施した4地区にさらに4地区（清里、浦川原、吉川、金谷）を加え、8地区で実施する予定です。

これからも、公民館は、地域の魅力を発見し、地域を見直す講座を実施することで、「ふるさとのために、自分に何ができるだろう」と考えることができる人を、育てていく場でありたいと思います。

こうした講座を各地区で盛んに行っていくことがきっかけとなり、人與人、地域と地域の交流が促進されます。そこから、元気の出るふるさとづくりのために、新しい力が生まれてくることを願って、今後も、公民館としての人づくり、地域づくりをすすめていきたいと思っています。

ハーモニーを楽しむ

混声合唱団阿賀野

私達は、市内にあるいくつかの合唱団の中で、唯一の混声合唱団です。団員は一七人、月3回の練習は、主にふれあい会館を使わせていただいています。

夜の練習なのですが、それぞれ仕事があり、全員がそろうのは発表会直前くらいしかありません。どこかのパートが一人とか、時にはパートが欠けることさえあります。

それでも、集まったメンバーで濃密な練習を重ね、少しずつではありますが、レ



ベルの向上を図っています。何よりも、歌うことが好きで、声を出し、ハーモニーを味わうことが楽しみで続けています。できることなら団員を増やし、もっと多くの声で楽しみたいと願っています。

阿賀野市 混声合唱団阿賀野
渡邊 政和 記



楽しくパステル画制作

パステル友の会

現在女性十人のグループです。小関育也先生の指導のもとにパステル画を描きましょうと月三回静物・人物・風景等、年間計画をたて、和気あいあいと楽しく描いています。



上越市・パステル友の会
小林 範子 記

平成三年公民館の生涯学習講座でパステル画教室がありました。終了後希望者で四月十一月故猪股浩一先生とパステル友の会が発足しました。絵画は油絵が主体である雰囲気の中でパステルは単なるスケッチの材料という見方もあります。そんな中でパステル画のよさを知っていただきたく楽しんで描いています。作品展もしています。メンバーは市展、県展、全国パステル展をめざす人、それぞれ個性を尊重しながら、仲良くやっています。お仲間募集中。

「いつもお世話になっております」が枕詞の若くない新人さん。顔はチョッとこわもてで、ネクタイ締めて、腰が低く、不気味な微笑が怖さを醸し出す。満員の山手線で、いつの間にか周りが妙に空いていたという話もうなずける。

公民館勤務になって、もう1年…いやまだ1年なのに、もう何年も居るかの如く職場を引っ張り奮闘中。その風貌もあってか来館する市民の皆さまからの覚えめで

南魚沼市塩沢公民館

副参事 笠原 正俊さん



たく、ご指名電話も中々のもの。

公務員らしくない気さくさと、エロおやじのトークが炸裂する不思議なキャラが相まって、いつも笑いが絶えない。そんな笠原さん曰く「一緒に異動で来た渡辺さん (H25. 1月号登場) によって自分が整理整頓されそうで、本気で心配です。」

(南魚沼市中央公民館 山崎 麻衣 記)

湯東地区公民館の司令塔を担う三富学さんを紹介します。公民館は初めての職場というわりに、とても地域の人との接し方がうまく(さすが歳功?)、湯東地域のメインイベントである「どろんこカップ・大運動会・駅伝大会」等ぐいぐい地域の人達を引っ張っています。(市の方針による地域住民主導の理想のもと、引いたり押ししたり…されてます)

新潟市湯東地区公民館

主査 三富 学さん



「ほんわり♡やわらか♡温厚」な方ですが、私がアドバイスを求めると、仕事の手を休め相談にのってくれる頼りになる先輩です。

日頃、言えないけど感謝しています。

仕事量が多い中、心労も多いと思いますが、頑張ってください。

(新潟市湯東地区公民館 笹川 智子 記)



お元気ですか

村田 繁男 (三条市)



退職して時間ができ、近辺の里山歩きやわずかな面積の畑仕事に精を出すかわら、公務として行政相談委員や福祉ボランティアのお手伝いをしています。

かねてから関心があった郷土三条の歴史を少しでも知る手掛かりにと、古文書の勉強会で、ミミズ文字の手ほどきを受けています。残念ながら内容の理解までには届かないのが悩みですが楽しくやっています。

また、公民館のウォーキング教室がきっかけで、気分転換と体力づくりには一番適った運動になっており感謝しております。

最近、よく耳にする「終活」なる言葉が気がかりなこの頃ですが、気持ちだけは元気にやっているとと思っています。

Net work ネットワーク

◎第2回いじめ根絶にいがた県民会議開催

当会が後援している「いじめ根絶県民会議」が、5月の第1回に続き、1月31日(木)に第2回目の会議が県教職員会館で開催されました。関係団体のほとんどの代表が出席しました。

全国的に「いじめ」が注目されてい



る中、報道テレビカメラが入った中での開催でした。

県民会議の活動総括、中学校からいじめ防止取組の事例発表の他、講師からいじめ防止の講話がありました。



挨拶する高井盛雄・新潟県教育長

◎第2回下越地区公連

代議員会開催

5月開催の第1回に続き、今年度の活動を総括する第2回下越地区公連代議員会が2月5日(火)に下越教育事務所で開催されました。今年度の事業評価や来年度事業の検討を中心に協議しました。



下越公連代議員会の様子

事

務局長のつばやき

3月は別れの季節です。

転勤、異動、定年等で職場を去る人。進学、就職などで親から離れる人など別れは様々。栄転の人には心からお祝いの拍手を。定年の人には惜しみ

大切な子どもたちのために

日本の将来を担う大切な子どもたちや地域住民の安全を確保するため公立学校施設の耐震化を推進しています。

新潟県公立学校施設整備促進期成会
会長 (出雲崎町長) 小林 則 幸

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

ない慰労の拍手を。進学、就職の子どもには大きな激励の拍手を。そして転勤の仲間には最大の感謝の拍手を。まもなく拍手に込めるように桜が開花します。(田原)